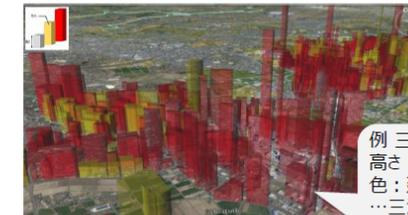
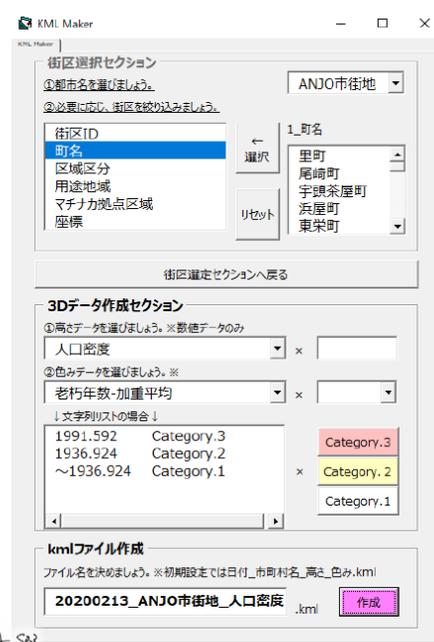
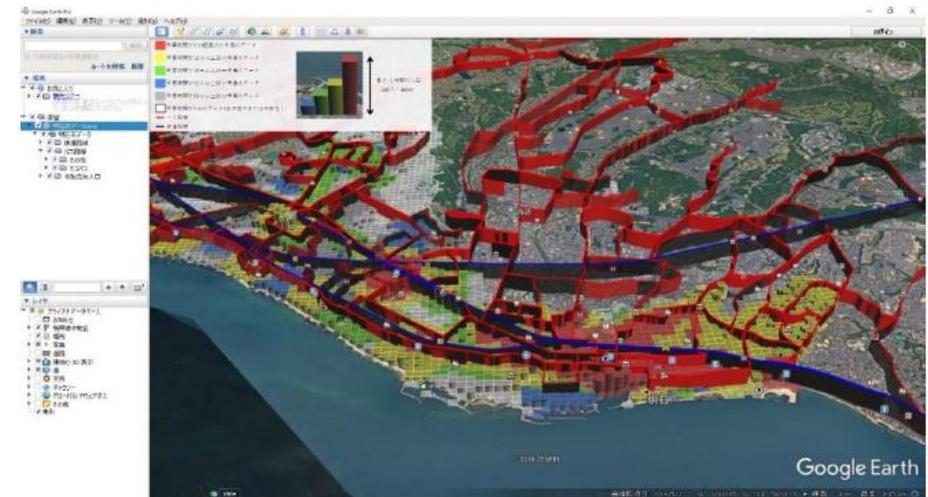


提案名	B- 1) 課題×課題を手軽に見える化！可視化データ作成アプリの開発																					
目的	<p>① 都市計画基礎調査を活用し、街区データ（街区番号、座標）を作成し、ウェブ公開。</p> <p>② 都市計画基礎調査を活用し、都市情報データ（街区番号、各種基礎情報）を作成し、ウェブ公開。</p> <p>③ 見える化をしてみたい街区、掛け合わせたい情報にあった可視化データ作成アプリを作成し、無償公開。</p> <p>④ 可視化データ作成アプリによる可視化データ（City-GML項目と互換するKML）が作成され、市へ情報提供。</p>																					
成果	<p>安城市をフィールドとして、国勢調査などを加工しオープンデータを作成。 オープンデータの活用を推進するため、オープンデータを可視化するアプリ「Mieru-Da」を開発。</p> <p>また、安城市以外の自治体においても活用が期待できる。 本ツールの周知のため、「第三次安城市都市計画マスタープラン協創のまちづくりガイドブック別冊」を作成した。</p> <div data-bbox="1375 614 1987 1242" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★どんなことができるアプリなの？</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オープンデータを使って、Google Earth上で課題×課題の組合せデータを簡単にグラフ化できます。</li> <li>② 作ったデータは、Google Earth上ですぐに確認できます。</li> <li>③ オープンデータに自分の気づきを追加できます。</li> <li>④ 安城市だけでなく、一定のデータがそろえば利用可能です。</li> </ol>  <p>例 三河安城駅周辺 高さ：人口密度 色：建物の老朽年数 …三河安城駅周辺は若い(赤が多い)？！</p> <p>★どんないいコトがある？</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 新たな気づきの発掘があるかもしれません。</li> <li>② 気づきを語り合う、コミュニケーションツールになるかもしれません。</li> <li>③ i-都市再生の取組を、全国に波及させられるかもしれません。</li> </ol> </div> <div data-bbox="1605 1228 2038 1313" style="border: 1px solid purple; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>わ～お、ステキ★ てか、i-都市再生って何？</p>  </div> <div data-bbox="2012 614 2446 1256" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">  <p>KML Maker</p> <p>街区選択セクション ① 都市名を選びましょう。 ANJO市街地 ② 必要に応じ、街区を絞り込みましょう。</p> <table border="1"> <tr> <td>街区ID</td> <td>1_町名</td> </tr> <tr> <td>町名</td> <td>里町</td> </tr> <tr> <td>区域区分</td> <td>尾崎町</td> </tr> <tr> <td>用途地域</td> <td>宇頭茶屋町</td> </tr> <tr> <td>マチナカ拠点区域</td> <td>浜屋町</td> </tr> <tr> <td>座標</td> <td>東栄町</td> </tr> </table> <p>3Dデータ作成セクション ① 高さデータを選びましょう。*数値データのみ 人口密度 × [ ] ② 色みデータを選びましょう。* 老朽年数+加重平均 × [ ]</p> <p>↓文字列リストの場合↓</p> <table border="1"> <tr> <td>1991.592</td> <td>Category.3</td> <td>Category.3</td> </tr> <tr> <td>1936.924</td> <td>Category.2</td> <td>Category.2</td> </tr> <tr> <td>～1936.924</td> <td>Category.1</td> <td>Category.1</td> </tr> </table> <p>kmlファイル作成 ファイル名を決めましょう。*初期設定では日付_市町村名_高さ_色み.kml 20200213_ANJO市街地_人口密度 .kml [作成]</p> </div>	街区ID	1_町名	町名	里町	区域区分	尾崎町	用途地域	宇頭茶屋町	マチナカ拠点区域	浜屋町	座標	東栄町	1991.592	Category.3	Category.3	1936.924	Category.2	Category.2	～1936.924	Category.1	Category.1
街区ID	1_町名																					
町名	里町																					
区域区分	尾崎町																					
用途地域	宇頭茶屋町																					
マチナカ拠点区域	浜屋町																					
座標	東栄町																					
1991.592	Category.3	Category.3																				
1936.924	Category.2	Category.2																				
～1936.924	Category.1	Category.1																				

提案名	B-2) 「i-都市再生」の都市計画マスタープラン・交通計画立案への実装可能性検討調査
目的	<p>明石市が抱える都市交通課題の解決手法の一つとして「i-都市再生」を位置づけ、都市計画マスタープランと総合交通計画等の検討プロセスに「i-都市再生」を組み込み、その成果を用いた計画立案、施策展開の検討や、合意形成ツールとしての可能性の試行を通じて、「i-都市再生」の計画立案への実装可能性を検討することを本調査の目的とした。</p>
成果	<p>明石市をフィールドとし、公共交通アクセシビリティと人口を組み合わせたデータをi-UR形式で作成し、可視化した。さらに、行政の実務での活用を念頭に、公共交通利用状況を可視化するプロトタイプシステムを構築し、毎年の公共交通利用状況と人口分布状況の把握、及び利用促進の施策検討を可能にした。明石市民対象のWebアンケート調査を実施し、可視化した三次元データが、従来の2次元表示に比べ、理解度が高いという結果が得られた。</p>



図表出典：R1年度モデル調査事業報告書

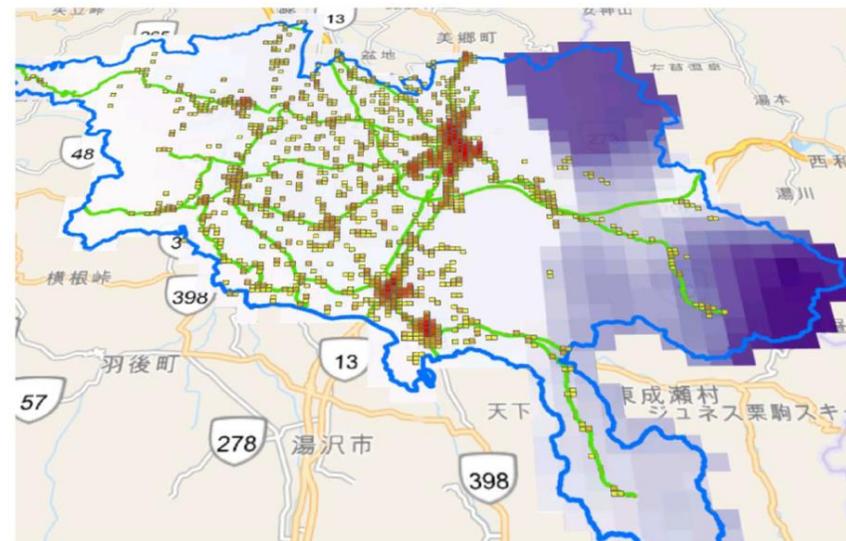
<p>提案名</p>	<p>B- 3) 地域活動等の見える化により移住希望者に選ばれる地域へ</p>
<p>目的</p>	<p>人口減少、三大都市圏への人口流入などで犬山市においても、移住施策が実施されている。そこで、地域に関する基礎情報やアンケート結果を基に、地域に見える化を推進するとともに、地域住民へのアプローチにより、地域活動やコミュニティの活性化を図るものとする。</p>
<p>成果</p>	<p>犬山市の1500 世帯を対象に、地域のつながりや地域活動を可視化するためのアンケートを実施。 アンケート結果を地図上で可視化した。移住希望者が希望する移住先を探す資料としての活用が期待できる。</p> <p>地域活動の見える化情報プラットフォームの構築に向け、以下が必要：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全域へのアンケート展開・可視化の実施</li> <li>• 空間的な項目の可視化（例：通勤時間）</li> <li>• 容易に移住希望先を抽出できる機能を搭載</li> <li>• 移住希望者に向けた有効な指標パターンの更なる類型化・簡便な操作</li> </ul>



図表出典：R1年度モデル調査事業報告書

提案名	B-4) 横手市多核型コンパクトシティにおける雪に強いまちづくり基盤
目的	<p>日本有数の豪雪地帯に位置している横手市の道路の除排雪事業において、3次元表現を用いて除排雪作業の優先順位や実施タイミングについて見える化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 道路の除排雪事業の優先順位や実施タイミングの可視化</li> <li>• 作成した3Dデータを用いて、除排雪作業の優先順位に関する標準的なユーザーインタフェースを確立</li> </ul>
成果	<p>横手市の関係部署にて、現在の除排雪事業を知るためのヒアリング調査を行った。そのうえで、国土数値情報などのオープンデータを活用し、横手市に高齢者夫婦世帯数の3次元表現、積雪量を重ね合わせた地図を作成した。可視化により、どの地域を優先的に除排雪作業を行うか、などの優先付けなど、業務計画の検討資料としての活用が期待できる。</p> <p>今後、以下を実装していくことで、除雪費の支出を抑え、横手市が目指すコンパクトシティ化に向けた市政への一助となると予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各種人口データのマッピング</li> <li>• 交通データのマッピング</li> <li>• かまくらなどイベント事業と排雪作業の融合</li> </ul>

高齢者夫婦世帯数(3次元表現)と例年積雪量の相関



<p>提案名</p>	<p>B- 5 ) CityGMLに基づく4d-GISによる都市物質ストックの推計</p>
<p>目的</p>	<p>既存研究のレビューからCityGMLに関する世界的な動向を把握するとともに、CityGMLを活用した都市の物質循環分析に関する新規性を明らかにする。</p>
<p>成果</p>	<p>検証対象地域である北九州市付近を対象に、基盤地図情報の建物データをCityGMLに変換し、外周線の時系列変化を組み込むことで4D-GISデータベース化を行った。 この4D-GISを用いて都市の物質ストックを推計できる「物質ストック推計システムの構築」を行った。</p> <p>本システムの活用で、個別に検討されてきた都市の物質フロー・ストック、温熱環境（ヒートアイランドなど）、エネルギー、水、交通、防災といったテーマを統合し、総合的な都市環境管理が期待できる。</p> <p>今後のシステムの改善に向け、「建物高さ」・「建物履歴分析（建物同一性判定）」に関する制度の向上が不可欠である。</p> <div data-bbox="1437 682 2474 1179" data-label="Diagram"> </div>

図表出典：R1年度モデル調査事業報告書

提案名	B-6) 災害情報可視化による市民・行政の都市再生・まちづくり意識向上調査
目的	市民に防災意識を持ってもらうため、災害情報化マップの作成及び、そのマップを活用したワークショップの開催を行う。
成果	<p>三重県尾鷲市の市街地をフィールドとし、南海トラフの巨大地震に伴う津波発生を想定し、地震発生後30分間における災害情報可視化マップを作成した。マップ作成にあたり、津波浸水データや建物3Dデータなどを作成した。</p> <p>市民ワークショップを開催し、そのアンケート結果から90%以上の方が津波の被害想定や垂直避難という手段を、災害情報可視化マップによって具体的に知ることができたと回答した。災害情報の可視化マップが防災意識の向上に有効であることが分かった。</p> <p>データを元に現地調査を行うことで実際に避難可能な場所を増やすことが期待できる。</p> <p>一般市民が所有するPCやスマートフォンにおいても避難可能距離や避難ルートの検証が可能</p> <p>→建物データと浸水データの容量の軽量化、津波到達時間ごとの色分け表示</p>



図 2-5. 津波浸水可視化の例(20 分後)

(Google Earth)

図表出典：R1年度モデル調査事業報告書